

## 平成 29 年第 2 回伊賀市総合教育会議 議事録

1. 開会日時 : 平成 30 年 1 月 23 日 (火曜日) 14 時 00 分
2. 開会場所 : ハイトピア伊賀 5 階 学習室 2
3. 出席者 : 岡本市長、笹原教育長、中委員、長谷委員、内藤委員、谷本委員、  
前川企画振興次長、児玉教育次長、谷口学校教育推進監、藤山教育環境政策監、  
谷口教育総務課長、澤田学校教育課長、山本生涯学習課長、狩野文化財課長、  
西尾上野図書館長
4. 傍聴人 : 2 名
5. 協議・調整事項
  1. あいさつ
  2. 協議・調整事項  
テーマ～伊賀市の子ども達の学力の向上と今後の教育について～
    - (1) 子どもたちの学力向上について
    - (2) グローカル人材を育てる教育について
    - (3) 「伊賀市の子ども弱みと強み」について
  3. その他

〈閉会:15 時 34 分〉

教育次長 皆様、こんにちは。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ただいまより、平成 29 年度第 2 回総合教育会議を開催させていただきます。それでは、開会に当たりまして、市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長 皆さんこんにちは。新年になりまして初めての会議でございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。大変寒い日が続いておりまして、明日も雪になりそうな中、インフルエンザが流行っており、学級閉鎖、学年閉鎖になっているようですので、しっかりと健康管理をしていただきたいと思います。

本日は、平成 29 年度第 2 回の総合教育会議ということでもあります。子どもたち

の学力向上、郷土教育というようなこと、要は一人ひとりが輝いていける、それぞれの能力を活かしてあげられるような教育をしていかなければいけないのではないかと思います。我々の使命は、人材を育てるということであります。それは、この地域を持続可能な活力あるそして潤いのある誇れる町にしていくということだと思います。「子どもは国の宝」と言いますが、私も「子どもは伊賀の宝」と前から申し上げておりますので、そういったコンセプトの下、本日もよろしくお願ひしたいと思ひます。

教育次長

ありがとうございました。それでは、協議・調整事項に移らせていただきます。この総合教育会議については、市長と教育委員会が協議・調整し、連携を図りつつ、教育行政を推進していくことを目的としております。

本日は、～伊賀市の子ども達の学力の向上と今後の教育について～というテーマとさせていただきます。昨年の11月に教育委員様と共に、全国でも学力が高いと言われている福井県へ視察に行きまして、その内容等につきましても本日も報告をさせていただきますながら、伊賀市の教育について今後どのように進めていくかということをご協議いただけたらと思ひます。

まず、資料に基づきまして事務局から説明をさせていただきます。

(1)「子どもたちの学力向上について 福井県での視察を終えて」ということで、学校教育推進監より説明をお願いします。

#### 学校教育推進監 説明

教育次長

以上、視察の概要を説明させていただきました。今回の視察については、一乗谷朝倉氏遺跡、丸岡城、坂井中学校、金沢海みらい図書館へ行かせていただきました。視察に行かれた教育委員様からご感想をお聞きしたいと思います。では、内藤委員からお願いします。

内藤委員

福井県坂井市へ行かせていただいた時の感想ですが、まず、人口規模が伊賀市と同じくらいということでしたが、地域力という点において非常に素晴らしい地域だなというのが第一印象でした。地域が子どもを育て、学校を守るんだという意識が高く、それがいかに子どもたちを育むかということを目の当りにしたという感じがしました。子どもたちにかかる期待を子どもたちの意欲に変えていくためには何が必要かを考えさせられました。やはり、愛情のある後ろ盾を子どもたちに感じさせてあげることが大事なんだと思ひます。具体的には、図書館が学校に隣接しており、司書の方の出入りがある環境が整っていること、もう一つ印象的だったのが、この地域に住んでいる子どもが、外に出て行って蟹を綺麗に食べられなかったら地

域の恥になるという思いから、毎年子どもに一杯の蟹を食べさせるという授業を郷土学習という形で行っているとおっしゃっていたのが印象的でした。県からの予算であったり、色々な後ろ盾があって地域力や学習の充実が図られるんだということを感じました。

教育次長 長谷委員お願いします。

長谷委員 福井県の子どもたちは、非常に学力が高いということですが、一番私が思ったことは、学校と家庭との役割がはっきりしているということです。伊賀の場合は家庭が学校に色々な事を任せてしまって、本来家庭ですべき学習やしつけを学校に任せて、それが先生への負担に繋がっている状況だと感じました。その中で、伊賀市としては土曜授業を見直すということになり、先生への負担も軽減され、それによって子どもたちへの教育の質が向上することに繋がることを期待しています。

教育次長 中委員お願いします。

中委員 毎年視察に行かせて頂いて、色々経験させてもらいます。今回は坂井中学校に行かせていただいて一番びっくりしたのは、英検に対する考え方が、県・市・家庭が一致していて、子どもたちにグローバルな力を付けさせようと一致団結したものが感じられました。中学校では英検を全員受験ということで、予算は県が出すということでした。色々な方が支援をして子どもたちに力を付けさせていこうとしていることにびっくりしました。中学校を準会場にして受けるためには10人受験者が必要になるので、伊賀の場合受けられない学校がほとんどです。学校側もあまり積極的ではないので、とても残念に思いました。やはり、経験を積んだ大人として、子どもたちに道筋を立ててあげたいし、立てていただきたいと感じました。先日成人式に参加させていただきましたが、半分以上の子が県外に出ていました。子どもたちが立派に育った姿を見て、伊賀市に帰ってきて家庭を持ちたいと思えるような地域にしていきたいと切に感じます。予算が関係することなので難しい部分もあると思いますが、子どもたちのために英語教育に力をいれていただきたいです。

教育次長 谷本委員お願いします。

谷本委員 家庭環境の違いという点で、福井県ではほとんどの家庭におじいさん、おばあさんが居て、家庭でも子どもたちに目が届いているという環境ということで、伊賀ではそれは現実的に難しいなと思いました。また、金沢海みらい図書館に行きましたが、年間60万~70万人の方が来館され、非常にすばらしい図書館ですが、電子書籍は扱っていないそうです。現在はいいですが、10年、20年先になると電子書籍

の時代になり、世界中の本を見ることができるようになると思います。伊賀市も図書館をつくる際には電子書籍を導入すれば便利になり、良い方向に進むんじゃないかと思いました。

教育次長            ありがとうございました。教育委員様から色々とお話いただきましたが、市長いかがでしょうか。

市長                 お話を伺っていると、地域性というか、子どもたちをめぐる環境や文化が違うんだなと思いました。おそらく越前の方ですから、家にはおじいさん、おばあさんが居る環境で、やはり、労働のあり方が伊賀とは違うんでしょうし、その分、子どもたちに目が届く環境で、子どもを教育する人の数が多いんだろうなと思います。伊賀も昔から教育については盛んなところであったし、それこそボーイズビーアンビシャスの時代には、しっかりと地域が教育を大切に、有意義な人材を育てようという中で、戦後に社会構造が変わったということがあるんでしょう。そんな中で、家庭でしなければならない事を学校に任せてしまって、先生方も頼まれると嫌とは言えず受けてしまい、悪循環を起こしているというのが現状だろうと思います。以前から言っていますが、家庭に返すものは家庭に返し、地域に返すものは地域に返して、学校教育とは何をすべきなのかということが大事だと思います。家庭というものは一番子どもたちが過ごす場であり、家庭での基本的な生活習慣の調整や、家庭でしなければならない学習というものをもう一度見直して、しっかりとやっていくことが大事だと思います。今、そういう潮目に来ているんだろうと思います。家庭教育の再構築、学校教育とのあり方を見直すことが大事だと思います。

教育次長            ありがとうございます。今、市長からも家庭教育の再構築というお話がありました。やはり、社会教育の役割ということを考えさせられます。そんな中で、家庭にまではまだ至っていませんが、モデル事業として生涯学習課で地域未来塾という事業に取り組んでいます。つきましては、現状と課題も含め生涯学習課長から説明をさせていただきます。

#### 生涯学習課長 説明

教育次長            説明のとおり、色々な取り組みをしていますが、予算的な課題もありますし、地域人材を活用して、ボランティアとしてお願いをしていくということで、今、取り組み始めているところです。また、子どもたちの学力を支える地域や家庭の役割ということで、地域の理解を深めていくような取り組みを進める必要があると考えます。

                      教育長からもご意見頂戴したいと思います。

教育長

福井県の坂井市に視察に行かせていただいて、授業を観せていただきましたが、第一印象は子どもたちが楽しそうに授業を受けていて、これは身に付いていくんだろうなと思いました。校長先生とのお話の中で、「保護者からのクレームは年に1本あるか、2本あるかです。」とおっしゃっていたのが一番印象に残っています。市長もおっしゃいましたが、家庭の中で子どもが独りにならない、いつも誰かに見られていることが大切なんだろうと思いました。先週の校園長会で話をしましたが、「ユマニチュード」というフランスから入ってきた認知症介護の技術ですが、日本でも推奨されています。4つの柱があり、その中の1つを学校教育に活かさないかということを考えて、校長にお話をしてお話をして実践してくださいとお願いをしました。どういう方法かと言いますと、子どもの正面に行き目の高さを同じにして、他愛も無い話から始めて最終的に子どもに伝えたいことを言うていくというような、少し時間のかかることですがそういった方法です。子どもは目の前で話をされると、自分にちゃんとやってくれているんだと認識します。それは、学説の中で、認知症患者は斜めから何を言われても耳に入らないそうです。しかし、目の前で話かけられると、自分に言っているんだという認知能力が人間として残っているらしいので、学校での取組の中で、子どもたちにやっていただきたいということと、教師仲間にも目を見て話しをしてコミュニケーションのきっかけを作ってくださいと申し上げました。今後どのように影響してくるかは分かりませんが、子どもたちが、自分を気にしてくれているんだと感じて、良い方向に向かってくれればいいなという思いがあります。

教育次長

教育長もおっしゃっていただいたように、指導の仕方というのも考えていく必要があると思いますし、地域がいかに教育力を高めていくかということが大事だと思います。

市長

お話を聞いていて思ったのは、子どもたちは家の子どもであり、地域の子どもであるということですから、昔は隣の子も叱ったし、分け与えるものも分けたというそんな文化を再構築していかないといけないと思います。教育だけではなく人を育てるという意識を、大人たちにも持っていただく必要があると思ったりもします。

自分で課題を決めて、調べて、まとめて発表するということが大変苦手であるという結果が出ていました。教育においては、これが一番大事なことだと思います。自らが生きていくためには、課題が何か、それをどう解決していったらいいのかということが一番大事だろうと思います。子どもを巡る貧困ということがあっても、その中で、子どもたちが折れてしまうのではなくて、その環境の中でどうしたら生きていけるのかという手立て、方便を少しでも考えられる強い子にしていかなければいけないんじゃないかと思います。学力向上は傾向と対策があつて、点を取るコ

ツがありますが、そういうことではなく、芯の強い子どもたちを育てていきたいと思えます。

教育長 国も考えていますが、これからは、自分の頭で考えて自分で行動する能力をどうやって養っていくかということが大事です。やはり自主性が無いといけません。子どもたちが興味をもって学んでいくきっかけづくりを教育委員会でやっていくべきだと思っています。一つのきっかけ作りとして、小学校3年生～高学年を対象とした、プログラミングができる知育教材があるんですが、それを1学年に導入したいと思っております。紙で共同学習も大事ですが、子どもたちが面白いと思えるきっかけづくりになればという思いです。

市長 子どもたちはスマートフォンが好きですから、そういったアプリを開発するといった研究をしてみたいかかですか。

予算の話になりますが、スクールバスにかかる費用が2億円ということで、何らかの方法でそれを半分にできたら、学校の設備環境や教材費等に再投資ができると思います。是非、保護者の皆様にご理解をいただき、少し我慢をしたら、より子どもたちの成長に繋がるということをご吹聴賜りたいと思います。

教育長 その費用をすべて教育方面に使わせていただけるというありがたいお言葉です。

市長 そうです。

教育長 ありがとうございます。

市長 アプリはありそうな気がしますね。

教育長 お話した知育教材は、色々なものを組み立てて、そこにプログラミングを組めるというものです。学年によって色々グレードがありますが、確かにアプリを開発できる人材育成に繋がれば良いと思います。

市長 いいですね。

中委員 伊賀市もゴミ分別アプリがあって、とてもいいと思っています。あんな感じで手軽に使えたり、相談ができたりといったものがあればいいと思います。

市長 プログラミングは目的が持てるし、考えか方が整理できると思いますので、そういったことができる、生活にも活かされていくと思います。そういった教育はし

っかりとしていただきたいと思います。子どもたちが興味をもって、楽しく没頭できるものがないと思います。

教育次長            アプリの開発ですとか、色々な課題をいただきました。スクールバスの検討についても、教育総務課で他課とも調整を図りながら、半分とはいきませんが縮減できるよう努力しております。それによって出てきた予算については、子どもたちのために使わせていただけたらと思います。

郷土のこと、地域のことを大事にできる人材を育成していこうということで、(2)「グローバル人材を育てる教育について」に移らせていただきます。グローバルとは、グローバルとローカルを合わせた造語で、先ほど中委員からもご意見いただきましたが、英語力を高めてアピールできるような人材を育てよう、また、地域のことを知ることで、地域に愛着を持てる人材を育てようということで、取り組みについて学校教育課から説明をさせていただきます。

#### 学校教育課長 説明

市長                郷土教育教材についてですが、自分で課題を見つけて研究していくということ言えば、せっかく郷土教育教材を作るんだったら、出典を明らかにしておくことが大事です。参考文献や参考資料について、ページの中に書き加えておくべきだと思います。「江戸時代に忍者が ～ と伝えられ」とありますが、これが何に書いてあるのかということが明らかでないと、子どもたちが調べられないですね。これは、執筆はどなたがしたんですか。先生方ですか。

学校教育課長      これは、聞き取りに行かせていただいて、取材をもとにしています。

市長                取材はいいですが、これは教材ですから、確たる根拠が無いといけません。伝説であればコラムに書けばいいので、教材に書くべきではないです。

教育次長            内容を精査していきたいと思います。

市長                グローカルについては、伊賀に居ても何処に居ても、世界に目が向けられるということは大事です。最終的には五感で感じるようにしていかないとはいけません。予算があれば、他国へ行くというようなプログラムを考えていくことも大事だと思います。伊賀の子どもたちに海外体験をさせようといったクラウドファンディングや応援寄附金といったことをやってもいいと思います。人と違うということを認識することがどんなに面白いことなのか、どんなに大切なことなのか、しかもそれが許せる、つまり多様性を認めるということが大事です。伊賀市には外国籍の子どもが

沢山居ます。言語の違いは個性ですから、それもしっかりと伸ばしてあげられるような教育をしてあげたいと思います。

教育次長 確かに、母国語を持った子どもたちが沢山おられますので、学校の中でも色々と検討していきたいと思います。また、それによって起こる差別発言もありますので、しっかりと取り組んでいきたいと思います。また、総合教育会議は企画振興部と教育委員会で行っておりますが、将来的には幅広い部署と一緒に検討できる会議にしたいと思います。

それでは、(3)「伊賀市の子どもたちの弱みと強み」についてということで、皆様からご意見頂戴したいと思います。

谷本委員 子どもたちは、伊賀で生まれたアイデンティティを一番基本として生きていくわけですから、それが一番自信になると思います。

市長 私たちの先人たちは、すばらしいものを残してきました。たとえば、少し振り返っただけでも、ユネスコの無形遺産登録に上野天神祭、伊賀・甲賀の忍者文化が日本遺産、日本の20世紀遺産20選に伊賀上野城下町の文化的景観、勝手神社のかんこ踊りが国の重要無形民俗文化財になったなどがあります。こんな確たる文化文物があるところは他にありません。子どもたちにとったら、自らを磨く、感性を磨くには素晴らしいところです。そういったところが強みだと思います。

弱みは、大人たちの世界にもある、なあなあ主義というか、誰かがしてくれるだろうというようなところですね。伊賀の子は、少し競争意識に欠けるように思います。

教育長 目的意識を持つのが遅めなのかなと思いますね。高校生ぐらいからどうしたいといった思いがでてくるのかなと思います。伊賀の子どもたちに限ったことではないと思いますが、自分で考えて行動していくという意識が薄いように思います。ですから大人たちが、色々な方法を教えていかないといけないだろうし、伊賀には沢山宝がありますが、あまり近いところにあると実感が沸かないので、あえて郷土教育という形でしっかりとやっていきたいと思います。

市長 子どもたちは、凄いいものを見たら、「凄い」って単純に思うので、そういうモチベーション作りの機会を与えてあげて、勉強というのは、自分の夢を叶えるためのものなんだということを教えてあげることが大事です。

教育次長 子どもたちの夢を実現させるために、基礎学力として学校教育の中で与えていく部分が必要かと思いますが、社会での子どもたちの居場所作りが大事なのかなと思



います。ご協議いただいたことを活かして、事務局としてもしっかりとやっていきたいと思えます。

それでは、3. その他の項ですが、全体を通して何かご意見あればお願いします。

谷本委員 成人式ですが、今後も市が主催で行っていくのですか。地元にしていただく方向へ考え直す時期が来ているのではないのでしょうか。

教育次長 今のところ、成人を迎えた人を市が主体になって祝おうということで行っています。

谷本委員 選挙権が18歳からになったこともありますし、考え直してもいいと思えます。

教育次長 数年前にもそんな議論がありました。地域の中で祝ってもらえるようにということで、すべてではないですが自治協に入っていたりしています。成人式を校区単位にしているのは、そういった地域に参画をしていただくという目的で、一つの取り組みとしてさせていただいています。

市長 方向性としては、谷本委員のおっしゃったことは間違っていないと思えます。ただ、そこまで地域社会が目覚めているかという部分もありますので、地道に積み重ねていく必要があると思えます。

教育次長 成人式には、1日で1億4~5千万円の経済効果もございますので、地域の活性化の中での役割分担は今後の課題になると思えます。伊賀市としても、地域を巻き込んだ成人式をやろうということで進めております。

谷本委員 成人式で挨拶させていただきましたが、同窓会に来ているような感覚を受けたので、少し変わってきているのかなと思えました。

教育次長 これは、今後の課題とさせていただきますと思えます。

中委員 今年度は視察で金沢市の図書館、昨年度は岐阜の図書館を拝見しました。やはり、市の目玉として子どもたちのための図書館を造っていただきたいと思えます。金沢市の図書はかなり立派で、館長に伺ったところ、市長も市議会も子どものために使うんだから無駄なことは無いと言って立派な図書館ができたそうなので、子どもたちに限らず、市民が集える図書館づくりを是非お願いしたいと思えます。

市長 大事なことは、おっしゃっていただいたように、人材をつくるということが何よ

りも大事ですし、それは、対費用効果で計れるものではないので、金沢市の方たちのように、考え方をしっかりと持っていただけるようにすることが大切です。皆様方もそのようなことは当然のことなんだということを、周囲にお伝えいただけたらありがたいと思います。

教育次長           ありがとうございます。教育長いかがでしょうか。

教育長           子どもたちは宝ですから、色々な観点から見てあげないといけないと思います。環境づくりもうそうですが、学校教育だけではなかなかうまく完遂できないものだと考えているので、家庭の中にどのように話をしていくかということが非常に大変で、道筋をしっかりと考えたうえでやっていきたいと思っています。まずは、学校教育をいかに充実したものにしていくかということが大切だと考えておりますので、教育委員会だけでなく皆さんのご理解を頂いたうえで、我々も誠心誠意努力していきたいと考えております。

市長           子どもたちも、何らかの形で地域活動に参加するようなことは、学校教育の中で単元として無いのですか。

教育次長           青少年育成会議が地域の子どもたちの活動の協力をさせていただいています。

市長           昔は、体育の授業中に草引きなどしましたが、最近はしないんですか。

学校教育推進監   運動会の前など、子どもたちもしております。上野東小学校や緑ヶ丘中学校などでは、地域の防災訓練に参加したりしておりますし、運動会で覚えたダンスも、地域の老人会へ行って披露したりと、そういった形で地域と繋がりができてくると深まりも出てきます。そうした地道な活動が地域と繋がる一歩かと思います。そこには、学校長の指導力、コーディネーターする力も必要になってきますが、その辺りがうまく行くと、地域との繋がりも深まると思います。

教育次長           それについては、生涯学習の部分が非常に大きな力になると思います。公民館などを活用し、子どもたちが地域でどう育っていくべきかを考え、もう一度再構築する必要があるので、宿題とさせていただきますので、今後検討していきたいと思えます。

様々なご意見を頂きました。今後も伊賀市の教育行政推進のために取り組みたいと思えます。本日はありがとうございました。